

シンポジウム プログラム (敬称略)

13:30 開場 (受付開始)

14:00 開会 趣旨説明:野林厚志 (国立民族学博物館 教授)

14:10 講演① 野林厚志 (国立民族学博物館 教授)

演題: **食事文化と間食**

内容: 人間の心と身体の健康、社会の絆を作るのに役立ってきた間食の領域が、かつてとは異なる社会的背景のもとで拡大している。本発表では間食の社会文化的特徴を中心に紹介し、「三度の食事」以上に社会や時代を色濃く映し出す間食を考える視点を示してみたい。

14:30 講演② 佐々木 敏 (東京大学 名誉教授)

演題: **栄養疫学からみた間食 —だれがいつなにを食べているのか?**

内容: 私たち現代人はいつ食事をし、いつ間食を取っているのか? 間食としてなにを食べ、どのような栄養素を取っているのか? それは健康からみて好ましいのか好ましくないのか? そしてそれは国や文化によって異なるのか? 栄養疫学研究が映し出す間食の実態を紹介する。

14:50 講演③ 橋本周子 (関西学院大学 准教授)

演題: **おやつは愛情の味…か? —近代フランスにおける子どもの食への関心と管理**

内容: おやつといえば、子どもの一日のなかの至福の時。ところがおやつがそのような母子の愛情の場面の代表的なひとつとなったのは、早くとも19世紀以降のこと、人類史全体から見れば比較的最近だ。それには食糧事情の安定という決定的な要因のほかに、子どもに対する眼差しの変化があった。健康でありますように、「ちゃんとした”子”になりますように——甘やかすだけでは子育ては成り立たないと信じる親の自覚は、子どもにとってはありがたい迷惑なことに、〈おやつ〉にさえ干渉してくるのである。

15:10 休憩

15:30 トークセッション 日常生活での規則的な「三度の食事」と現代の間食を様々な視点からスポットをあて、それぞれの立場でトークを繰り広げます。

モデレータ: 野林厚志 (国立民族学博物館 教授)

パネリスト: 佐々木 敏 (東京大学 名誉教授)

橋本周子 (関西学院大学 准教授)

16:30 閉会 (予定)

会場へのアクセス



赤坂インターシティ コンファレンス the Amphitheater

〒107-0052
東京都港区赤坂1-8-1
赤坂インターシティAIR 4F

▶ アクセス

溜池山王駅
(東京メトロ銀座線、南北線)

国会議事堂前駅
(東京メトロ千代田線、丸ノ内線)

- ・溜池山王駅(14番出口)からお越しいただくとビル直結で雨の日でも濡れずにお越しいただけます。
- ・会場へはビル3階の入口よりお入りください。